

# 北京で塚本由晴（建築家）講演会 震災の記憶を未来に伝える建築の姿とは

建築展「3.11—東日本大震災の直後、建築家はどう対応したか」に併催

国際交流基金（ジャパンファウンデーション）は、11月29日に北京の清華大学建築学院で、建築家の塚本由晴氏による講演会「系譜学的建築デザイン」を開催します。記憶を未来に伝える現代の建築の姿を新しい視点で提案し、東日本大震災と四川大震災を経験した日中共通のテーマである、震災からの復興と、明日の社会と建築のあり方を共に考えます。

本講演会は、建築展「3.11—東日本大震災の直後、建築家はどう対応したか」の北京展開催に合わせて実施されます。

- 講演会日時 2012年11月29日（木）16時～18時
- 講演テーマ 「系譜学的建築デザイン」
- 会場 清華大学建築学院 使用言語：英語（通訳なし）

## 塚本 由晴（つかもと よしはる）

アトリエ・ワン主宰、東京工業大学大学院准教授

独自で斬新な視点をもったリサーチや建築論で、日本のみならず海外の建築界にも大きな影響を与え続けている建築家。1992年、月島桃代とアトリエ・ワン設立。「3.11—東日本大震災の直後、建築家はどう対応したか」展では、「1000年に学ぶ。戻って住む。忘れない。」プロジェクトとして、人類の知恵が凝縮された世界遺産をヒントに、震災の記憶を未来に伝える復興計画を、教え子とともに3点の印象的なドローイングを描いて提案。毎日を生きる空間としての街そのものが記憶装置となることを意図したこの作品は大きな反響を呼んでいる。

## 建築展「3.11—東日本大震災の直後、建築家はどう対応したか」

■ 北京展日程 2012年11月29日（木）～12月20日（木）



2012年3月より世界各地での展示を開始した国際交流基金主催による巡回展。東日本大震災後1年の間に被災地で実施・計画された50以上の建築プロジェクトを、「避難所での緊急対応・最初期の取組み」「仮設住宅」「本格的復興計画」の3段階に分類し、海外の建築家からの提案も含め、写真やパネル、模型を使ってわかりやすく紹介する試み。震災後いち早く被災地に入って未曾有の被害を目の当たりにし、建築に何が可能かを自問しつつ災害と向き合ってきた建築家たちの復旧・復興に向けた歩みを世界に伝える。五十嵐太郎監修。2012年3月に仙台とパリにて開催後、ロシア、ドイツ、イタリア、韓国、中国、メキシコなど世界約30都市を3年間に亘り巡回する。

（※左は、パリでの展覧会の様子）

お問い合わせ：文化事業部 企画調整チーム 担当：山本  
電話 03-5369-6060

〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-4-1

www.jpf.go.jp